



## 第147号

宮城県亶理農業改良普及センター

〒989-2301

亶理郡亶理町逢隈中泉字本木9

TEL 0223-34-1141

FAX 0223-34-1143

E-mail wrnokai@pref.miyagi.lg.jp

https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/



(左上：かんしょの定植作業，右上：収穫作業，左下：選別作業，右下：キュアリング施設)

## 新たな「かんしょ」の産地づくりに向けて

宮城県亶理農業改良普及センター 所長 松原馨一

国内需要が年々縮小している米に替わり、水田において園芸作物を生産することが求められており、本県でも令和12年までに園芸産出額を倍増させる目標を掲げ、露地野菜の生産拡大に向けた取組を加速しているところです。

かんしょ(さつまいも)は、青果用のほか、干し芋や菓子の原料として需要があるだけでなく、近年は海外でも人気があり、令和3年の輸出額は23.3億円と、野菜の中ではいちごに次いで第2位となっています。

しかし、輸出したかんしょが、海上輸送中に腐敗するケースが多発するという課題がありました。

このため、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構は山元町にあるキュアリング\*施設を持つ農業法人と共同で、輸送中に発生する腐敗を低減させ

る技術開発に取り組んでおり、その成果が横展開され、輸出力が拡大することが期待されています。

県といたしましては、新たにかんしょの生産拡大を支援する部会を立ち上げ、苗の確保やキュアリング施設の整備などを支援しているほか、当普及センターとしても、管内で複数の農業法人がかんしょの生産に取り組んでいることから、管理技術を指導するなど積極的に支援してまいります。

この地域に、いちごに次ぐ新たな園芸品目の産地ができるよう、当普及センターの活動に御協力をお願いいたします。

\* キュアリングとは、特定の高湿多湿の条件下で、かんしょの傷口にコルク層を形成させて、病原菌の侵入を防ぎ腐敗を低減させる技術のこと。

## 〈令和4年度 プロジェクト課題 活動紹介〉

### 新たな品目・技術導入による土地利用型法人の経営発展

土地利用型農業を営む経営体に対する米価低迷や資材高騰の影響が続く中、主食用米からの更なる作付転換が求められており、県では大区画ほ場を活用した露地園芸の導入等を推進しています。

岩沼市内の法人では、加工用ばれいしょや水稻育苗用ハウスを利用したぶどうの栽培に取り組んでおり、園芸品目導入のモデルケースとして期待されています。普及センターでは、試験場と連携して栽培技術支援を行ってきました。

令和4年産の加工用ばれいしょは、排水対策試験を実施したものの、湿害や6月下旬の高温による早枯れ等が原因で前年の収量を上回ることができませんでした。本年は、植付時期を見直し、排水対策を強化して取り組む計画です。

また、対象法人は設立から6年が経過し、経営環境も変化しています。そこで、現状を分析し中長期的な事業計画を作成するため、令和5年1月17日に中小企業診断士を派遣しました。今回は、過去複数年の財務諸表から現在の経営状況を整理しました。次回は、品目毎の経営実績を元に、より具体的に来期以降の見通しを立てる計画です。



ばれいしょ収穫・選別作業



中小企業診断士による  
経営支援の様子

### 次代を担ういちご生産者の環境制御技術等の習得による生産性向上

令和4年10月26日、若手のいちご生産者の定植後の本ば管理技術向上、生産者間の交流を目的に、JAみやぎ亘理、亘理・山元いちご選果場において、いちご本ば管理勉強会を開催しました。参加者は、管内若手生産者を中心に個人、法人構成員等含めて42人の出席がありました。勉強会では、農業・園芸総合研究所野菜部イチゴチームの研究員を講師に招き、所内のいちごの栽培状況や今後の管理、いちごに関する試験成績について情報提供がありました。亘理普及センターからは、いちごの生理特性に基づいたハウス内の環境管理について紹介しました。その後、株式会社やまもとファームみらい野に移動し、いちご栽培ほ場の視察を行いました。栽培担当者から、耕種概要等を説明いただき、その後は生産者同士で情報交換を行いながら、現在栽培しているいちごの生育状況を確認しました。

今後も、いちごの産出額増加に向けて管内のいちご生産者同士の交流を図っていきます。



いちご本ば管理勉強会



やまもとファームみらい野

### 担い手育成と果樹優良品種導入による果樹産地の維持発展

本課題では、亘理町及び山元町の果樹生産者の後継者を対象に活動しました。

主な活動実績として、りんご栽培の土づくりをテーマとした勉強会(合計6回開催)、農業・園芸総合研究所果樹ほ場視察研修会、後継者を対象としたりんごせん定講習会、「シャインマスカット」販売会を開催しました。勉強会及び現地研修会には、毎回、課題対象者を含め約10人の生産者が参加しました。

各活動とも、参加者から積極的な質問・意見が出され、活発な会となりました。また、参加者同士の情報交換も積極的に行われていました。

普及センターでは、今後もりんご等の果樹生産者を対象とした研修会や勉強会の開催を通じて、果樹産地の維持発展を支援していきます。



農業・園芸総合研究所視察研修会



りんごせん定講習会

## 新たな取組の定着による持続可能なカーネーション産地の実現

名取市花卉生産組合のカーネーション生産者は、新たな栽培管理技術として、化学合成農薬だけに頼らず、天敵の活用など様々な手法を取り入れて病害虫防除を行うIPM（総合的病害虫管理）や、冬季に夜間変温管理を行うことで燃油消費量の削減を図るEOD-heatingの導入に取り組んでいます。また、生花店に協力を求め、消費者が産地名を認識して切り花を購入することができるよう、販売段階で産地名を表示する産地表示販売の定着に向けた取組を進めています。

本年度、2つの新たな生産技術においては、実践する生産者を中心に栽培管理を支援するとともに得られた効果を確認し、技術を取り入れた栽培体系を作成して現地検討会で共有しました。

また、母の日前の需要期に生花店の協力を得て、消費者向けに名取産カーネーションの産地表示販売が実現し、生産者と生花店の繋がりを作ることができました。共同で支援を行った地元の関係機関から今後のPR活動における提案もあり、地域内で連携して特産品を盛り上げていこうとする機運ができ始めています。



現地検討会



生花店店頭での産地表示販売



生産者と生花店の意見交換

## トピックス

### みやぎ農業未来塾（農薬基礎勉強会）を開催しました

令和4年11月22日、亘理農業改良普及センターを会場に「みやぎ農業未来塾（農薬基礎勉強会）」を開催しました。当日は、認定新規就農者や農業法人の採用5年目までの社員等27人が参加し、日々の農作物の栽培管理で農薬を安全かつ効率的に使用できるよう学習しました。

講師の公益社団法人みどりの安全推進協会小川裕作氏からは、①農薬の基礎知識、②農薬の使い方、③農薬の安全使用、④RACコードと抵抗性対策、⑤農薬の処分方法について講演いただきました。また、普及センターからは、令和4年度から「宮城県農作物病害虫・雑草防除指針」がwebで閲覧できるようになったことについて情報提供しました。

参加者の多くが現在農薬を取り扱っている若手農業者で、熱心に受講していました。終了後のアンケートでは、「説明がわかりやすく、見やすい資料で勉強になった」等の意見がありました。



勉強会の様子

### 亘理名取地区地域営農推進研修会を開催しました

令和4年12月8日、管内の農業法人を対象に、労務管理能力の向上による雇用改善をねらいとした亘理名取地区地域営農推進研修会を開催しました。

株式会社ノースエイム代表取締役の宮村昌吾氏を講師に招き、「農業経営における基本的な雇用管理と農業版人事評価制度導入による雇用の維持・拡大」をテーマに御講演をいただくとともに、令和5年10月から導入される消費税のインボイス制度について、仙台湾税局及び東北農政局の担当者から情報提供していただきました。

講演では、人事評価制度の必要性や作り方、制度の運用等、事例を交えた具体的な内容の説明があり、27人の出席者は熱心に聴講し、事後アンケートでは、「今後、我が社でも人事評価制度を取り入れていきたい」等、前向きな回答が多数見られました。

普及センターでは、今後も管内の農業経営発展のために、農業法人への支援を行っていきます。



研修会の様子

## 令和4年産水稻の作柄

## ■「ひとめぼれ」の収量構成要素（普及センター生育調査ほ場）

品種	調査地点		収量構成要素					
			穂数 (本/㎡)	1穂籾数 (粒/穂)	籾数 (百粒/㎡)	登熟歩合 1.9mm≤ (%)	玄米千粒重 1.9mm≤ (g/千粒)	精玄米重 1.9mm≤ (kg/10a)
ひとめぼれ	4ほ場 平均	本年値	423	73.8	312	73.6	23.1	530
		平年比・差	97%	104%	100%	95%	103%	102%

※平年値：同一ほ場での過去5か年平均値。

※4ほ場平均：普及センター生育調査ほ場4か所の平均値（管内4市町各1か所）。

6月上旬の低温多雨により分けつが抑制され、1㎡当たり穂数は平年よりやや少なくなりました。幸い、管内では7月中旬の記録的豪雨による被害は小さく、1㎡当たり籾数は平年並みでした。

7月中の日平均気温がやや高く籾殻が大きく形成されたことで、千粒重がやや重くなったと推定されます。8月から9月にかけての登熟期間中は、日照時間が平年比70%だったため、登熟歩合がやや低かったと考えられます。結果的に、収量は平年並みでした。

## ■令和4年産水稻の収穫量（東北農政局 令和4年12月9日公表）

区域	作況指数	篩目 1.9mm 以上収穫量
宮城県中部	100（平年並）	493kg/10a
宮城県全体	100（平年並）	511kg/10a

## お知らせ

## 「令和4年度宮城県農業・農村女性活躍表彰」で最優秀賞を受賞されました

「令和4年度宮城県農業・農村女性活躍表彰」において、亘理町の日下純子さんが最優秀賞を受賞され、令和5年1月31日に夢メッセみやぎで開催された「2023農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会」において、池田副知事から賞状を伝達されました。

本表彰は、農村生活や就労環境の充実を目指す活動をしている女性や男女共同参画につながる活動を実践している女性組織等を表彰するものです。

日下さんは、家業である畜産や水稻栽培等も行いながら、自家の遊休農地を活用してブルーベリー栽培やジャム加工に取り組んでおり、女性農業従事者としてワークライフバランスを実現していることなどが高く評価されました。

今後も生き生き輝いて、ますます御活躍されることを祈念します。



遊休農地で栽培しているブルーベリーと日下純子さん



賞状・副賞とともに